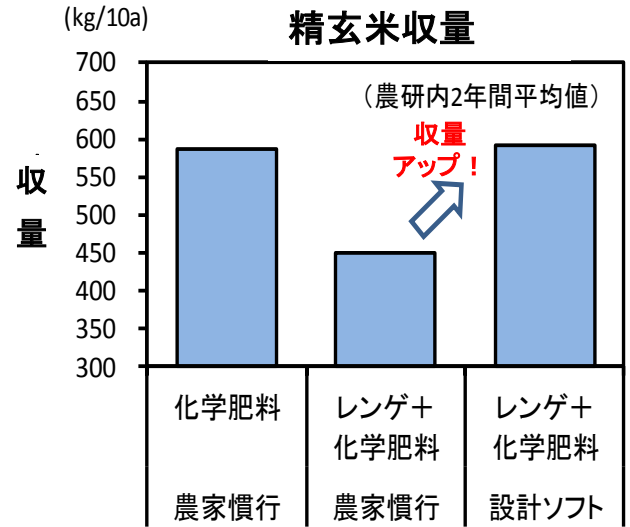


レンゲ米・菜の花米が安定して 高収量を得られる肥料計算ソフトを開発



レンゲを利用した稲作



レンゲ+適量の肥料で収量アップ!

開発のねらい

県産米の付加価値を高める取組みの一つとして、レンゲや菜の花を緑肥として水田にすき込み、肥料として稲作に利用しています。しかし、緑肥だけでは肥料不足で十分な収量が得られません。そこで、レンゲ米・菜の花米が安定して高収量を得られる肥料のやり方を明らかにしました。

新技術の概要

- 稲作における肥料効果が高い緑肥のすき込み時期を明らかにしました。
- 緑肥の種類や生草重、すき込み時期から緑肥の肥料効果を見える化し、さらに追加する肥料を選ぶと、施肥量が自動計算されるソフトを作りました。
- 水稻・麦・野菜栽培における緑肥の活用方法をマニュアルにまとめました。

活用場面

追加する肥料は有機質肥料も選択できるため、レンゲや菜の花を利用した有機栽培米・特別栽培米の生産・販売量の増加が期待できます。また、緑肥の利用で肥料代が安くなると共に、収量アップにより農家経営も改善されます。